プログラミング概論

第9回　2024年11月15日
App Inventorによる
Androidアプリ開発の実践
（3）楽器アプリの応用

今回の授業内容

- 円形の範囲の指定
- 素材を用意する
- 「太鼓の達人」もどきを作る
- 応用：音符（？）を流す

円形の範囲の指定

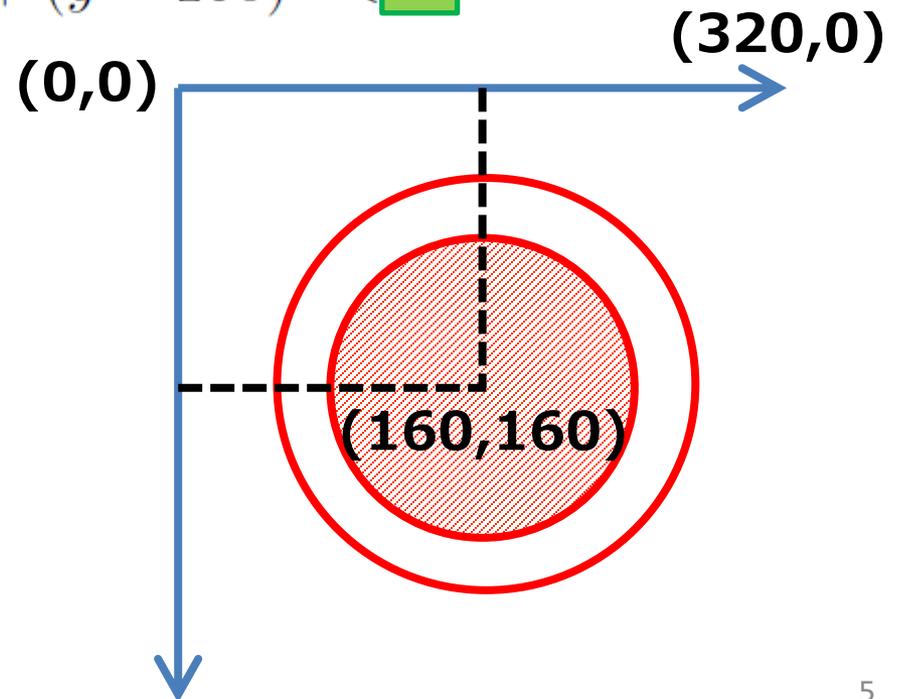# 円形の範囲の指定方法

タップした座標 (x, y) が

外側の円の半径

内側の円の半径

もし $(x - 160)^2 + (y - 160)^2 < \boxed{}^2$

もし $(x - 160)^2 + (y - 160)^2 < \boxed{}^2$

だったら
「ドン」
でなかったら
「カッ」

(0,0)

(320,0)

(160,160)

素材を用意する

△ 保護されていない通信　daisy.fwex.tohoku-gakuin.ac.jp/progintro.html

フリー素材へのリンク

- いらすとや（おみくじの検索結果）
- 音楽研究所（まのくまさん）

素材

- ピアノ

「太鼓の達人」もどきを作る

新しいプロジェクトをつくる

ai2.appinventor.mit.edu/#6031035893612544

MIT APP INVENTOR

Projects | Connect | Build | Settings | Help | My Projects | View Trash | Guide | Report an Issue | English | akiyolab6@gmail.com

Projects New project | New folder | Move... | Move To Trash | View Trash | Login to Gallery | Publish to Gallery

Projects

	Name	Date Created	Date Modified ▼
☐	Gakki	Nov 9, 2024, 11:34:18 PM	Nov 9, 2024, 11:54:08 PM
☐	Kazuate	Nov 3, 2024, 9:52:39 PM	Nov 9, 2024, 11:32:59 PM
☐	Omikuji	24, 11:18:34 PM	Nov 3, 2024, 9:45:28 PM

Create new App Inventor project

Project name: | Taiko

今回は「Taiko」

Toolkit: | Default ▾ ⑦

Theme: | Classic ▾ ⑦ **Classic**

Cancel | OK

Privacy Policy and Terms of Use | Accessibility: accessibility.mit.edu

12

縦に部品を並べる

横に部品を並べる

演奏開始ボタンをつくる

キャンバスを配置する

画像をアップロードする

高さと幅を設定する

演奏機能を追加する

曲のファイルを指定する

音を追加する

音を設定する

音を設定する

26

座標を表示するところをつくる

隠れてしまいましたがこの下にLabel2

Iconにtaiko.pngを設定する

前回同様，タップした場所の座標を
確認しつつココの値を決めよう

```
when  Button1 ▾ .Click
do    call  Player1 ▾ .Start

when  Canvas1 ▾ .TouchDown
 x  y
do   ⚙ if     ⚙ ( get x ▾ - 160 ) ^ 2 + ( get y ▾ - 160 ) ^ 2  < ▾
     then  ⚙ if  ⚙ ( get x ▾ - 160 ) ^ 2 + ( get y ▾ - 160 ) ^ 2  < ▾
           then  call  Sound1 ▾ .Play
           else  call  Sound2 ▾ .Play
     set  Label1 ▾ . Text ▾ to  get x ▾
     set  Label2 ▾ . Text ▾ to  get y ▾
```

うまくいったら
Label1とLabel2は削除してOK

29

応用：音符（？）を流す
（１）演奏データに応じて
音符を流す

キャンバスを配置する

ワクを配置する

音符を配置する

音符の設定をおこなう

※**Interval**は音符の速さ．小さい方が速い．
最初122で試し，各自の実行環境に合わせて調整すること

音符を動かすための処理

演奏データを**リスト**に入れて順番に読み込んでいく

array	1	1	1	2	1	1	1	2	1	・・・
index	1	2	3	4	5	6	7	8	9	・・・18

演奏データ
（1が赤，2が青）

既にある
when Button1.Click
に追加

35

音符を動かすための処理

演奏データを**リスト**に入れて順番に読み込んでいく

array	1	1	1	2	1	1	1	2	1	・・・
index	1	2	3	4	5	6	7	8	9	・・・18
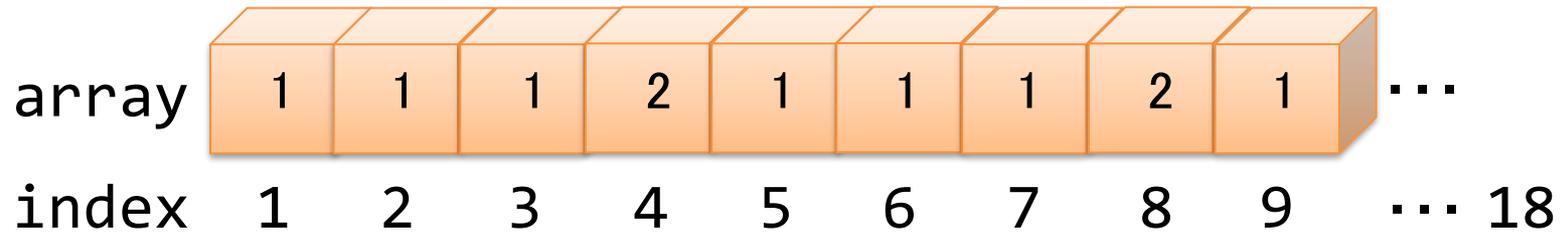
```
when  Ball1 ▼ .CollidedWith
  other
do    set  Ball1 ▼ . X ▼ to    150
      ⊙ if      get  global index ▼  = ▼  18
      then   set  Ball1 ▼ . Speed ▼ to    0
             set  Ball1 ▼ . Visible ▼ to   false ▼
      else if    get  global index ▼  < ▼  18
      then   set  global index ▼ to  ⊙   get  global index ▼  +  1
      ⊙ if    select list item  list   get  global array ▼   = ▼  1
                            index   get  global index ▼
      then   set  Ball1 ▼ . PaintColor ▼ to  ■
      else   set  Ball1 ▼ . PaintColor ▼ to  ■
```

データの数

もしindexが18だったら
　　ゲーム終了
もしindexが18より小さかったら
　　indexに1を足す
もしarrayのindex番目が1だったら
　　音符の色を赤にする
そうでなければ
　　音符の色を青にする

36

ここまでは全員がんばろう

続きは任意
ウェブの講義資料を見ながら
やってみよう

WORDでレポートを書く

課題レポートについて

- レポートの書き方
- レポートの構成
- 第1回レポートについて
- レポート作成上の注意

課題レポートについて

- レポートの書き方
  - Microsoft Wordで作成する
  - レポートの冒頭に，科目名・タイトル・所属・学生番号・氏名・提出年月日を入れる
  - 決められた構成で書く
  - サンプルをよく見てまねて書く
  - 提出方法・期限を守る
  - 困ったことがあったら期限前に担当教員に相談する → 1G2G: akiyo@mail.tohoku-gakuin.ac.jp

  3G4G: hiro_m@mail.tohoku-gakuin.ac.jp

課題レポートについて

- レポートの構成
  1. アプリの概要
     - 特徴・機能など詳細に書く。
  2. デザイナ画面
     - 各コンポーネントの説明も入れる。
  3. ブロックエディタ画面
     - （変数があれば）各変数の説明も入れる。
  4. 実行画面・操作方法
  5. 工夫した点
     - 「なし」はダメ。何か工夫すること。

第1回課題レポートについて

- タイトル
  - 楽器アプリの制作
- 内容
  - 第8回・第9回で制作したアプリのうち，より頑張った方についてレポートを作成する
- 提出方法
  - 講義用ウェブサイトからレポートとアプリをアップロードする
    - パスワードはmanabaの「成績」の「レポート提出用パスワード」に記載されている
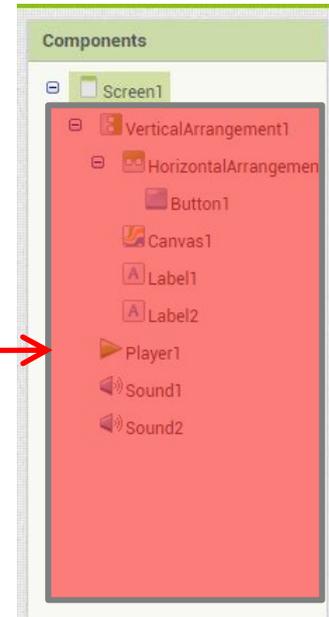- 提出期限
  - 12月3日（火）23:59

レポート作成上の注意

- コンポーネントの表にはここにあるものすべて挙げること。
- 「コンポーネントの説明」や「操作説明」が丸ごと抜けている人が毎年数名いる。大きな減点となるので注意すること。また「変数の説明」の対象はこのブロックを使って作ったすべての変数なので抜けがないように気を付ける。 `initialize global name to`
- 「工夫した点」を必ず挙げること。画像や音の差し替えを工夫した点に含めても良いが，最低でも一つは「プログラム上の工夫」があること。
- 「工夫した点」については，（プレイしなくても読んだだけで）意味が伝わるように特に丁寧に説明を書くこと。
- レポートは感想文ではないので感想を書いてはいけない。
  - 「〜できてよかった」「大変だった」「難しかった」など

応用：音符（？）を流す
（２）スコア表示

スコア表示用ラベルの設置

45

スコアを計算し表示する処理

本当は音符がワクに衝突した際にスコア判定が行われるべきだが，プログラムが複雑になるのでここではあえてタップの際に判定を行っている．

追加

追加

ここらの値は適当に調整する
何段階か（良・可・不可など）に分けてもよい
「ドン」がうまくいったら「カッ」にも追加
本当は色の判定も必要

追加